

入会のご案内

■ 会員の種類

会員種類	年会費	資格
維持会員	4,000 円	個人
ジュニア会員	2,000 円	18 歳以下
賛助会員	10,000 円 (1 口)	個人または法人

■ 会員の特典

- ・南極と北極の総合誌「極地」の無料配布
- ・各種出版物・地図・記念品の割引販売
- ・Web マガジン等の情報提供
- ・講演会・各種イベントへの参加
- ・賛助会員の会費は寄付金として扱われ、所得税の控除が受けられます。

■ 申し込み

当財団ホームページの入会ページからお申込みください。



ご寄付のお願い

当財団の活動は広く一般の方々と法人様からの善意のご寄付によって運営されています。これらの活動にご理解とご賛同をいただき、ぜひご寄付をお寄せくださいますようお願い申し上げます。詳細についてはホームページをご覧ください。

なお、当財団へのご寄付は、「特定公益増進法人」として税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。

■ 連絡先

公益財団法人 日本極地研究振興会
〒190-0023 東京都立川市柴崎町 2 丁目 5-2-503
電話：042-512-5357 Fax：042-512-5358
ホームページ：https://kyokuchi.or.jp/
E-mail：info@kyokuchi.or.jp



財団が目指すもの

当財団は、1964 年の創立以来、半世紀以上にわたって南極・北極地域での研究・教育活動を支援し、それらの活動から得られる成果を社会に普及・啓発し、青少年教育に役立てるための様々な取り組みを行ってきました。2013 年の公益財団法人への移行を機に、その事業を大幅に拡大強化しています。

近年、南極・北極域では海水や氷床の融解によって温暖化が他の地域よりも 2～3 倍の速度で進行していることが明らかとなり、また人為起源の南極オゾンホール出現等の地球規模の環境変化を先取りする敏感なセンサーとしての価値が認識され、南極・北極域は地球の未来像を考える上で重要な役割を担うことになりました。

こうした時代の要請に応えるために、「南極・北極から地球の未来を考える」をミッションステートメントとして、下記のような事業に全力で取り組んでいます。

財団の事業

- ① 極地研究に従事する研究者、研究機関等への助成
- ② 極地研究に関する国際交流及び現地調査等への助成
- ③ 極地の自然、観測情報等を活用する教育者等への助成
- ④ 極地観測事業その他極地研究・教育活動の成果等の普及
- ⑤ 国立極地研究所「南極・北極科学館」のミュージアムショップの運営
- ⑥ 極地観測事業を通じて開発取得した著作権及びノウハウの活用による資料貸出、技術指導
- ⑦ その他、上記の目的を達成するために必要な事業

研究助成事業（公募型）

南極・北極域で研究・観測・調査活動を行う研究者への助成と、それらの研究活動から得られた成果を発表するための国際シンポジウム等への開催・参加費の助成を行います。若手研究者や大学院生を主な対象とし、財団のホームページで公募し、助成選考委員会を審査し、理事会で採択者を決定します。

教育助成事業（公募型）

国立極地研究所と共同で「教員南極派遣プログラム」を主催しており、応募者から選考委員会で選考された小・中・高校教員に南極派遣費用を助成しています。また国立極地研究所が主催する中高生南極北極科学コンテストの後援や極地データを教育に活用する教員への助成を行ってきました。



公益財団法人

日本極地研究振興会

Japan Polar Research Association

出版・地図事業

■ 南極と北極の総合誌「極地」

1965年に創刊し、年2回刊行。南極・北極の自然と生態系、気候変動、観測・調査活動、教育活動、生活、観光、冒険、経済活動等の幅広い話題を取り上げ、人類のフロンティアとしての極地の大切さと面白さを伝えます。オールカラー印刷で、図や写真を豊富に掲載し、視覚的にも楽しめる雑誌です。



■ 南極カレンダー

南極探検・観測の長い歴史の中の特筆すべき出来事が、発生した月日に記載され、また南極観測隊員が撮った各月の写真についての解説もあり、カレンダーを見ながら南極の自然や南極観測について視覚を通して学ぶことができます。



■ 南極半島地図

最新の南極デジタルデータベースを用いた縮尺250万分の1の地形図(A1サイズ)。各国の観測基地、南極特別保護区(ASP)、南極史跡記念物(HSM)、重要野鳥生息地(IBA)のほか、南極クルーズ船がしばしば立ち寄るサウス・ジョージア島からサウス・シェトランド諸島、アンヴァース島等の拡大図も掲載されています。



■ 南極大陸地図

縮尺1000万分の1(A1サイズ)と縮尺1500万分の1(A2サイズ)の2種類。南極大陸の地形(等高線間隔は100m)と周辺の海底地形のほか、南極域にある各国の観測基地・飛行場、歴史的な探検・調査ルート、南磁極の移動軌跡等が記載されています。



■ 北極域地図

縮尺1000万分の1(B1サイズ)の北極海地図、縮尺1500万分の1(A2サイズ)の北極域地図の2種類。北極海の海底地形とその周辺の大陸地形のほか、国境、主な都市・町、国立公園、自然保護区、歴史的な探検・調査ルート、北磁極の移動軌跡等が記載されています。



普及・啓発事業

■ 情報発信

当財団の活動について幅広く社会に知ってもらうために、ホームページからの情報発信に力を入れています。また、研究・教育助金の申請、講演会や講師派遣の申込み、入会や寄付の手続きがホームページからできます。

このほか、Webマガジン「きよくさんぽ〜北極・南極からの手紙」を随時発行し、極地の自然、温暖化の影響、研究・教育活動の成果等の幅広い話題を提供しています。Facebook等のSNSでは双方向のコミュニケーションを重視して、読者に各種のイベント情報等を提供しています。

■ 講演会開催

南極・北極域の自然、環境・生態系、探検の歴史、最新の研究成果等を分かりやすく解説し、青少年教育や生涯学習、企業活動、極地観光等に寄与できるように、南極&北極の魅力講演会、南極・北極教室、各種の市民講座やセミナーを開催しています。

■ 講師派遣

南極地域観測隊員や極地専門家等のチャレンジ精神や研究・教育活動の成果等を青少年教育や社会に役立てるために、小・中・高校への出前授業、企業・各種団体の研修、生涯学習のために講師派遣を行っています。

小中高校生のためのSDGs/ESD事業

南極・北極域は氷床や海氷の融解によって温暖化が他の地域よりも急激に進行しており、地球環境の未来像を考える教材として最適な場所です。そこで南極・北極での研究・教育活動の最新の成果をもとに、ESD(持続可能な開発のための教育)に使用する副読本と学習プログラム「南極・北極から地球の未来を考える」を出版し、全国の学校に提供して、SDGs(持続可能な開発目標)達成の担い手の育成に貢献しています。また、デジタル地球儀のGoogle Earthを活用したデジタル教材を配信して、南極や北極までの航路、自然や動物の様子等の理解向上にも力を入れています。



小学生用副読本(左)と学習プログラム(右) 中学生用副読本(左)と学習プログラム(右)

ミュージアムショップ事業

東京都立川市にある国立極地研究所の南極・北極科学館内でミュージアムショップを運営しています。科学館見学者のために、財団が刊行した南極・北極地図、南極と北極の総合誌「極地」、南極・北極関係の書籍、南極カレンダー、絵葉書、オリジナルTシャツ、記念切手、ペンギンやシロクマ等のカプセルトイやぬいぐるみを販売しています。これらの一部は、当財団のホームページやネットショップからも購入できます。



国立極地研究所 / 南極・北極科学館
東京都立川市緑町 10-3

